

1 本年度の重点教育目標

すすんで考え、みとめ合う子供の育成～協働を通して～
『こころ』を育む学校づくり

2 本年度の取組の重点

①自己肯定感・自己有用感の育成 ②自己決定の場の提供
③共感的な人間関係の育成 ④外部（機関）との連携

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
①学級経営の充実	児童の実態や特性等に応じた計画性・柔軟性を兼ね備えた学級経営を営むことができたか。	a	児童に寄り添ったより一層の支援を行うため、全職員で協働しながら児童理解に努めていく。	A	A	
	全教職員による、組織的な関わりにより、児童の成長を支援することができたか。	a	児童交流会を定期的に行いながら全職員で全児童を見守る姿勢を構築し維持することができた。	A	A	
②学習指導の充実・授業改善	「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づいた授業を構築することができたか。	b	基礎学力を身に付けるべく日々授業改善を行った。更に研究を通して主体的な学びの構築を目指す。	A	A	
	教師相互が磨き高め合い、指導法の工夫や授業改善を進めることができたか。	b	個別最適な学び・協働的な学びをより意識するとともに、ICTを積極的に活用していく。	A	A	
③特別支援教育の推進	一人一人の教育的ニーズを把握し、達成感や成功体験を積み重ねながら、自己肯定感を高め、更なる意欲や自信につなげることができたか。	a	一人一人のよさや頑張りを様々な機会を通して伝え、児童が達成感や満足感、自己の成長を感じられるようにした。	A	A	
	児童の情報を日常的に共有し、一人一人に寄り添う指導をすることができたか。	a	特別支援委員会や職員会議の場での情報共有が、児童への指導に生かされた。	A	A	
④安心・安全性の確立	防災、防犯教育を充実し、地域性に合った避難訓練を実施して児童の安全意識、事故防止意識を高めることができたか。	a	避難訓練を計画的に位置づけたことで、安全意識、事故防止意識を高めることにつながった。	A	A	
	いじめや不登校、その他問題行動の早期発見・早期対応と未然防止に努め、児童が安全・安心して通える環境づくりに努めることができたか。	a	学校生活アンケート、お話タイム、子供理解支援ツール等の活用が、いじめや問題行動の早期発見・早期対応、未然防止につながった。困り感のある児童対応も丁寧に行った。今後も続けていきたい。	A	A	
⑤家庭・地域社会との連携・協働	共通の目標に向かって家庭や地域社会と連携を図ることができたか。	a	学校だより、学級通信、懇談会等、様々な機会を通じ、教育活動の目的や様子を伝え、連携を図った。	A	A	
	学校運営協議会の充実を図ることができたか。	a	学校運営協議会の場が、学校の教育活動への理解や協力を得ることにつながった。	A	A	
⑥教育公務員としての自覚と誇り	教職員としての責任を自覚し、誇りをもって、人間尊重の精神に基づいた教職員集団、学校づくりを実践することができたか。	a	職員研修による様々な指導方法の周知、教職員相互の情報交流が、子供を尊重する学校づくりにつながった。	A	A	
	サービスの厳正に努め、全体の奉仕者としての自覚をもって、職務を遂行することができたか。	a	教職員事故の具体事例を基に、日常の業務について振り返り、不適切な指導等の回避につなげた。	A	A	
⑦働き方改革の推進	教職員が心にゆとりを持ち、心身共に健康でやりがいを感じながら業務を推進することができたか。	a	行事や校内組織について見直しを進め、業務の平準化に努めた。	A	A	
	子供と触れ合う時間を確保することで、子供たちの笑顔につなげることができたか。	a	教育活動の成果や課題を基に、日課表や教育課程の見直しを進め、子供と触れ合う時間を確保することにつながった。休み時間などにも積極的に触れ合っている。	A	A	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。

